

平成27年度  
 広島県特別支援学校教育研究会 第2グループ  
 「障害のある幼児児童生徒に対する  
 キャリア教育の推進について」

指導助言者	広島県立教育センター	指導主事	竹野政彦
チーフ	広島県立呉特別支援学校	教頭	山中弘英
サブチーフ	広島市立広島特別支援学校	高等部主事	佐々木和宏
研究スタッフ	広島県立尾道特別支援学校	教諭	越智奈穂子 多田麻美
	広島県立廿日市特別支援学校	教諭	藤岡一莉
	広島県立福山北特別支援学校	教諭	中路大輔
	広島県立三原特別支援学校	教諭	玉林和絵 尾坂大介
	広島県立呉特別支援学校	教諭	品川泰
	広島県立庄原特別支援学校	教諭	小山英美
	広島県立広島北特別支援学校	教諭	藤川真紀 小林巧真
	広島県立沼隈特別支援学校	教諭	荒木ゆり
	広島県立黒瀬特別支援学校	教諭	吉行菜 行成謙二
	広島市立広島特別支援学校	教諭	松平知恵 井脇由美子

研究の目的

「授業においてキャリア発達を促すために  
 重要なことは何か？を明らかにする」

研究仮説の決定

昨年度

・「役割を与えて適切な評価をすれば、  
 児童生徒のキャリア発達が高まるだろう」

協議

・児童生徒が役割を意欲的に取り組むことが難しい  
 ・自信や意欲をもたせる評価をすることが大切

今年度

・結果だけの評価ではなく、途中経過の評価を行う  
 ・経過の評価をすることで自信をもたせることができる

仮説

「課題解決の過程を、肯定的に評価することで、  
 児童生徒のキャリア発達を促すことができる」

「課題解決の過程の肯定的な評価」とは

授業の中のある場面で児童生徒に課題設定をし、  
 その解決方法を評価する

研究の方法

1 課題解決の場面を設定し、  
 その過程を評価する

①課題解決の場面の設定

「将来目指す姿」 → 「場面の設定」

②課題解決の過程の評価の工夫

・多様な評価…自己評価, 他者評価  
 ・分かる評価…ICTの活用

研究の方法

2 授業における児童生徒の  
 行動観察

検証の方法

ベースライン期と指導期で  
 児童生徒の変容を比較する

キャリア発達を評価する基準の設定

※「キャリア発達評価シート」の活用 (※別紙参照)  
 児童生徒の変容を記録し比較する

実践例(小学部)

小学部第1学年 日常生活の指導(朝の会)

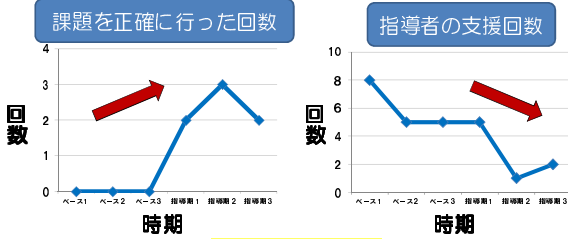
対象児童 知的障害及び知的障害を併せ有する発達障害

授業内容 朝の会の係の仕事(司会, 名前呼び,  
 授業カード貼り, 天気カード貼り)

キャリア発達を促す工夫

1 将来目指す姿  
 付けたい力(ルールを守る, 自分の係の仕事を理解して行う)  
 → 決まりや役割設定を明確にする。  
 2 分かる評価の工夫  
 → 映像を提示し, 課題解決の具体的場面を評価する。

### キャリア発達評価シートによる児童の変容



#### 結果と考察

**結果:** 課題を正確に行った回数がベースライン期より増加した。指導者の支援回数が減った。  
**考察:** 課題内容が明確になったことで、意欲的に係の仕事に取り組むことができるようになり、さらに、仕事の質が向上した。

### 実践例(中学部)

中学部第2学年 自立活動

対象生徒 知的障害を併せ有する発達障害

授業内容 御用学習

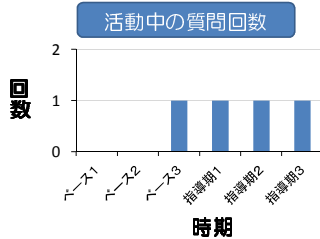
「分からないことは質問して確実に取り組む」

### キャリア発達を促す工夫

- 1 段階的な課題設定
- 2 多様な評価の工夫

→ 自己評価, 他者評価, 課題活動の過程を評価

### キャリア発達評価シートによる生徒の変容



#### 結果と考察

**結果:** 課題解決の過程を評価したことで、分からないことに自ら気づいて質問することが確実にできるようになった。  
**考察:** 課題設定を焦点化し、評価するべき場面を明確にした上で評価すると、自ら考えて課題を解決しようという意欲を高めることができると考える。

### 実践例(高等部)

高等部第1学年 自立活動

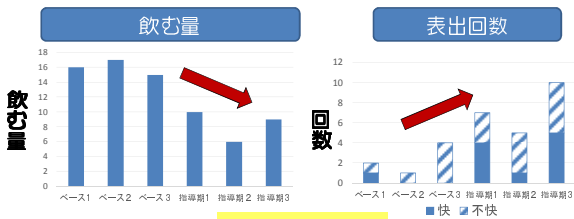
対象生徒 知的障害と肢体不自由の重複障害

授業内容 給食後にエンシュアを飲む

### キャリア発達を促す工夫

- 1 付けたい力  
→ 能動的に他者とかわる力  
働き掛けを受け止め、表情等で返答する等、人とかわる力
- 2 評価方法  
→ 摂食介助をしている指導者、周りの教員が賞賛や気持ちの代弁等の言葉掛けを行う

### キャリア発達評価シートによる生徒の変容



#### 結果と考察

**結果:** 飲む量は減少、表出は増加した。表出は言葉掛けに対するものと自発的なものが見られた。  
**考察:** 摂食に取り組む姿勢や表出を評価することで、表出が多くなり他者への意識・伝える意欲が高まったと考える。

### 成果



課題解決の過程を、肯定的に評価することで、児童生徒のキャリア発達を促すことができるとわかった

授業においてキャリア発達を促すために重要なこと

- 将来目指す姿から課題解決の場面を設定する
- 結果だけでなく過程の評価も大切にする
- 過程の評価の仕方を工夫する

### 今後の課題

- ・ 評価の方法とその効果の検討
- ・ キャリア発達を評価する基準の最適化